

大学生が求める養護教諭の役割・能力に関する研究

松田 芳子*・佐藤 由紀**・松田 美歩**

Expectations of University Students Regarding the Abilities and Roles of Yogo Teachers

Yoshiko MATSUDA and Yuki SATO and Miho MATSUDA

Abstract

A questionnaire survey targeting first year students of Kumamoto University was carried out from October through November 2004. The purpose of the survey was to find out what abilities and roles university students expect of Yogo teachers.

Survey results indicate that the students expect Yogo Teachers to focus on such duties as providing effective first aid, health counseling, and care of students who are not up to attending class but are able to present themselves at the school health office.

Students expect Yogo Teachers to have a warm personality as well as basic skills in providing solid nursing care. Many students also expressed a desire that the school health office be convenient, relaxing and welcoming to users.

Key Words : university students, Yogo Teachers, school health office

はじめに

現在、子どもの心身の健康問題が複雑化・深刻化し、養護教諭に求められる役割や、保健室の果たす役割もそれに伴って変化してきている。不登校、いじめ、薬物乱用、性の逸脱行動、生活習慣病などの現代的健康課題の解決にむけて、心身両面のケアの必要性から、平成9年の保健体育審議会答申¹⁾において「養護教諭の新たな役割」が提言された。この答申により、養護教諭のカウンセリング機能がさらに重視され、平成10年の教育職員免許法改正²⁾により、養護専門科目に「健康相談活動の理論及び方法」の科目が新設された。

また、児童生徒の健やかな心身の発達を援助するため、養護教諭の有する知識及び技能の専門性を教科指導に活用する観点から、養護教諭が「保健」の教科を担当する教諭または講師となり得ることとなった²⁾。このことにより、これまで以上に養護教諭の教育力・指導力が高く求められるようになった。平成7年には、養護教諭の保健主事登用の制度改正が行われ、養護教諭に学校保健活動の推進・活性化

を図る企画・調整・実行力が求められている。このように養護教諭の役割がますます重視され、養護教諭に求められる役割も多岐にわたり、また多様化してきている。学校保健活動の推進者である養護教諭が、養護教諭を取り巻く人々のニーズを常に知り、関係者に日々必要な働きかけを行い、協力して学校保健活動を進めていくことは、極めて重要なことであろう。

そこで、小学校・中学校・高校のすべての校種において養護教諭や保健室との関わりを経験して来た熊本大学1年次学生が、養護教諭にどのような役割・能力を求めているのかを把握することを目的として、質問紙調査を実施し検討を行った。

研究方法

調査対象 平成16年度の熊本大学1年次学生（理学部45名、工学部42名、医学部23名、文学部29名、薬学部6名、法学部12名、教育学部51名<養護教諭養成課程の学生は除く>）計208名の回答を得た。

調査時期 平成16年10月上旬～11月下旬

調査方法および内容 一般教育の授業終了時の時間に無記名による選択および自由記述式の質問紙調査を実施した。質問内容は、1) 保健室の利用状況およびその理由、保健委員の経験について、2) 保健室の機能、3) 養護教諭のイメージ、4) 一般的職務、大切にしたい職務、5) 特に必要だと思う

* 養護教諭養成課程

** 神奈川県茅ヶ崎市立小出小学校

*** 熊本県立荒尾高等学校定時制

能力, 6) 養護教諭との関わりの経験, 7) 保健室や養護教諭に望むこと, 期待すること等である。

結果および考察

1. 保健室の利用状況およびその理由, 保健委員の経験について

保健室に「よく行く・時々行く」者は, 小・中・高校とも約4割であった。「ほとんど行かない」者が全校種とも約6割で, 保健室を利用しない者が全体では多いといえる。また全校種において, 女子の利用率が高かった。保健室利用の理由では, 全校種において「病気やケガのとき」が最も多く, 次いで順に「友人の付き添い」, 「石鹸などをもらいに」であった。また, 校種が上がるにつれて「眠いとき」, 「つまらないとき」, 「嫌いな授業のとき」の選択率は高くなっていった。平成13年に実施された日本学校保健会の「保健室利用状況に関する調査」⁹⁾によると女子の利用者数が男子に比べて多い結果であり本調査も同様の結果であった。保健委員の経験は, 小学校で最も多く約2割で, 校種が上がるにつれて減少しており, 保健委員経験者は少なかった。

2. 保健室の機能についての認識

表1は, 保健室の機能について選択した結果を示したものである。全体の上位5項目は, 「救急処置の場」(94.2%), 「心の悩み相談の場」(66.3%), 「病気の休養の場」(56.7%), 「健康診断・検査・測定」(49.5%), 「安心できる場所」(28.8%)であった。今野が平成13年に他大学の学生を対象に実施した調査では, 保健室を「病気やケガをしたときに行く所」と全体の9割以上が選択したという報告がある⁴⁾。本調査でも「救急処置」の選択率が最も高率であった。学校保健法第19条に「学校には,

健康診断, 健康相談, 救急処置等を行うために保健室を設けるものとする」と定められている⁵⁾。また, 平成9年保健体育会審議会答申¹⁾の中では, 保健室の新たな機能として「健康相談活動ができる相談室としての機能」「健康情報センターとしての機能」があげられている。「心の悩み相談」, 「安心できる場所」が上位5項目の中にあげられたことから, 保健室の基本的な機能である「救急処置」「休養」「健康診断・検査・測定」の場, そして保健室の新たな機能である「心身の健康問題や心の悩み相談の場」の両面にわたって認識していると考えられる。コンピュータを活用して先進的な医学知識等タイムリーに情報を収集し活用・発信する健康情報センターとしての保健室の役割がますます期待されているが, 「健康情報センター」としての機能を示す「学校保健センター」の項目の選択率は低かった。また, 選択結果については特徴的な男女間の差はみられなかった。

3. 養護教諭に対するイメージについて

表2は, 養護教諭に対するイメージの選択結果を示したものである。全体で6割を越えていた項目は, 「やさしい」(64.4%), 「救急処置をする」(61.5%)であった。一方選択率は低かったが「自分とは無関係」(7.2%)といった項目や, その他の記述においては「近寄り難い」等の養護教諭に対するマイナスイメージの回答もあった。また, 選択結果については, 男女間に差はみられなかった。

4. 養護教諭の職務についての認識

(1) 養護教諭の一般的職務について

「養護教諭の一般的職務内容」の選択項目16項目は平成9年保健体育審議会答申の趣旨に基づき, 文部科学省が主催する研修会で指針として示している

表1 保健室の機能についての認識 (全体・男女別)

カテゴリー	※複数回答			
	全体 n=208 (%)	男子 n=106 (%)	女子 n=102 (%)	男女間有意差
ア: 救急処置	① 196(94.2)	① 99(93.4)	① 97(95.1)	n.s.
イ: 心の悩み相談	② 138(66.3)	② 69(65.1)	② 69(67.6)	n.s.
ウ: 保健学習・指導	⑥ 19(9.1)	⑥ 8(7.5)	⑥ 11(10.8)	n.s.
エ: 委員会活動	⑧ 14(6.7)	⑥ 8(7.5)	⑧ 6(5.9)	n.s.
オ: 健康診断・検査・測定	④ 103(49.5)	④ 47(44.3)	④ 56(54.9)	n.s.
カ: 休養	③ 118(56.7)	③ 60(56.6)	③ 58(56.9)	n.s.
キ: 安心できる場所	⑤ 60(28.8)	⑤ 32(30.2)	⑤ 28(27.5)	n.s.
ク: 遊ぶ場所	⑨ 10(4.8)	⑧ 7(6.6)	⑨ 3(2.9)	**
ケ: 学校保健センター	⑦ 15(7.2)	⑨ 6(5.7)	⑦ 9(8.8)	n.s.

※○の番号は順位を示す。 χ^2 検定 **p<0.01

表2 養護教諭に対するイメージ (全体・男女別)

カテゴリー	※複数回答			男女間 有意差
	全体 n=208 (%)	男子 n=106 (%)	女子 n=102 (%)	
ア：相談相手	⑤ 52(25.0)	⑤ 28(26.4)	⑤ 24(23.5)	n.s.
イ：やさしい	① 134(64.4)	① 70(66.0)	① 64(62.7)	n.s.
ウ：きびしい	⑧ 30(14.4)	⑧ 13(12.3)	⑧ 17(16.7)	n.s.
エ：近寄りやすい	④ 61(29.3)	④ 32(30.2)	④ 29(28.4)	n.s.
オ：家族のように身近	⑩ 9(4.3)	⑩ 5(4.7)	⑩ 4(3.9)	n.s.
カ：安心できる	③ 71(34.1)	③ 37(34.9)	③ 34(33.3)	n.s.
キ：頼りになる	⑥ 46(22.1)	⑥ 25(23.6)	⑥ 21(20.6)	n.s.
ク：救急処置をする	② 128(61.5)	② 64(60.4)	① 64(62.7)	n.s.
ケ：保健の知識を提供	⑦ 42(20.2)	⑦ 24(22.6)	⑦ 18(17.6)	n.s.
コ：自分とは無関係	⑨ 15(7.2)	⑨ 8(7.5)	⑨ 7(6.9)	n.s.
サ：その他	6(2.9)	4(3.8)	2(2.0)	—
シ：無回答	1(0.5)	0(0.0)	1(1.0)	—

※○の番号は順位を示す。 χ^2 検定

職務内容⁶⁾を参考にした。表3に、養護教諭が一般的に行っている職務内容と思うものについて選択した結果を示した。全体で7割以上の選択率を示した項目は「救急処置」(90.4%)、「保健室経営」(81.7%)、「健康診断」(80.3%)、「学校保健情報の把握」(78.8%)、「集団保健指導」(76.9%)、「ヘルスカウンセリング」(74.0%)、「保健室登校児等への対応」(72.1%)であった。一方、選択率が低かったのは「保健学習」(9.1%)、「保護者との情報交換、協力」(17.3%)、「学校環境衛生」(31.3%)、「日常の教育活動への参加」(35.1%)、「学級担任等との情報交換、協力」(35.6%)、「学級担任等が行う保健活動への協力」(36.5%)であった。養護教諭が一般的に行なっている職務内容として、「救急処置」「健康診断」「集団保健指導」という養護教諭に不可欠な従来の職務と、「ヘルスカウンセリング」「保健室登校児等への対応」という養護教諭の新たな現代的機能を示す職務の両面にわたり認識していることがわかる。筆者らが、教育実習を終えた教育学部4年生を対象に平成3年に実施した調査⁷⁾でも、上位選択項目、下位項目とも同様の傾向が見られた。保護者や学級担任等への情報交換、協力等の認識が低かったことから、大学生は、養護教諭が児童生徒に直接行っている専門的職務そのものは理解しているものの、養護教諭が専門的職務を進める上において重要な保護者や学級担任等との連携・協力については、見えにくいものだと推察された。「保健学習」については、養護教諭が保健の授業を担当する教諭または講師となることができるように教育職員免許法が改正された²⁾。このこと

により保健の授業に関するニーズがますます高まっていくものと思われるが、複数回答にも関わらず、本調査で「保健学習」(9.1%)の選択率は最下位であった。門田は、教育職員免許法改正後の2003年に中学校現職養護教諭を対象に、保健学習の担当経験や担当希望を調査し、その結果、保健学習の担当経験者は約2割であり、担当希望者は約3割であったことを報告している⁸⁾。現状では、保健学習を単元の一部でも担当している養護教諭はまだ少なく、養護教諭による保健学習の指導を経験した大学生は少ないため、「保健学習」の選択率が最も低かったと思われる。児童生徒が安全で健康的に学習できる環境づくりを目的とする学校環境衛生活動は、養護教諭の重要な職務の一つである。さらに養護教諭には、学校環境衛生活動から得た情報を教材化することで、環境教育にもかかわることが期待されている⁹⁾。本調査で下位にあげられたことや、後述の養護教諭との関わりの経験の自由記述でも学校環境衛生活動に関する記述がみられなかったことから、小・中・高校を経験した大学生にとって、学校環境衛生については、養護教諭の職務としてあまり認識されていないものと思われた。また、選択結果については、男女間に差はみられなかった。

(2) 養護教諭に大切にしたい職務について

表4に、養護教諭に大切にしたい職務内容について5項目を選択させた結果を示した。全体における上位5項目は「救急処置」(67.3%)、「ヘルスカウンセリング」(61.5%)、「保健室登校児等への対応」(53.4%)、「学校保健情報の把握」(41.8%)、「集団保健指導」(36.1%)であった。一方、選択

表3 養護教諭の一般的職務についての認識 (全体・男女別)

カテゴリー	※複数回答			男女間 有意差
	全体 n=208 (%)	男子 n=106 (%)	女子 n=102 (%)	
ア：学校保健情報の把握	④ 164(78.8)	④ 84(79.2)	② 80(78.4)	n.s.
イ：集団保健指導	⑤ 160(76.9)	⑤ 83(78.3)	⑥ 77(75.5)	n.s.
ウ：個別保健指導	⑧ 133(63.9)	⑧ 73(68.9)	⑧ 60(58.8)	n.s.
エ：保健室登校児等への対応	⑦ 150(72.1)	⑥ 77(75.5)	⑦ 73(71.6)	n.s.
オ：保健学習	⑬ 19(9.1)	⑬ 9(8.5)	⑬ 10(9.8)	n.s.
カ：救急処置	① 188(90.4)	① 97(91.5)	① 91(89.2)	n.s.
キ：ヘルスカウンセリング	⑥ 154(74.0)	⑦ 74(69.8)	② 80(78.4)	n.s.
ク：健康診断	③ 167(80.3)	③ 88(83.0)	⑤ 79(77.5)	n.s.
ケ：学校環境衛生	⑭ 65(31.3)	⑭ 31(29.2)	⑪ 34(33.3)	n.s.
コ：学校保健組織活動	⑩ 94(45.2)	⑩ 57(53.8)	⑨ 47(46.1)	n.s.
サ：健康管理	⑨ 104(50.0)	⑨ 58(54.7)	⑩ 46(45.1)	n.s.
シ：学級担任などが行う保健活動 への協力	⑪ 76(36.5)	⑪ 43(40.6)	⑬ 33(32.4)	n.s.
ス：保健室経営	② 170(81.7)	② 90(84.9)	② 80(78.4)	n.s.
セ：学級担任などとの情報交換、 協力	⑫ 74(35.6)	⑫ 41(38.7)	⑬ 33(32.4)	n.s.
ソ：保護者との情報交換、協力	⑮ 36(17.3)	⑮ 20(18.9)	⑮ 16(15.7)	n.s.
タ：日常の教育活動への参加	⑬ 73(35.1)	⑬ 39(36.8)	⑪ 34(33.3)	n.s.
チ：その他	1(0.5)	1(0.9)	0(0.0)	—

※○の番号は順位を示す。 χ^2 検定

率の低い項目(1割未満)は、「保健学習」(2.4%)、「学級担任などが行う保健活動への協力」(4.3%)、「学校保健組織活動」(5.8%)、「日常の教育活動への参加」(7.7%)、「保護者との情報交換、協力」(8.7%)であった。筆者らが、教育実習を終えた教育学部4年生を対象に実施した調査⁷⁾でも、養護教諭に大切にして欲しい職務内容の上位選択項目、下位項目とも同様の傾向がみられたが、教育学部4年生では「ヘルスカウンセリング」が最も選択率が高い結果であった。今回の大学生全体の結果では、「救急処置」が1位にあげられた。そこで、教育学部と教育学部以外の他学部で、選択順位をみたところ、選択順位に差がみられた。教育学部では、最も選択率が高かった項目は「ヘルスカウンセリング」(72.5%)であり、次いで「救急処置」(68.6%)、「保健室登校児等への対応」(52.9%)、「学校保健情報の把握」(43.1%)、「集団保健指導」(39.2%)「保健室経営」(39.2%)の順であった。他学部では「救急処置」(66.9%)が最も選択率が高く、次いで「ヘルスカウンセリング」(58.0%)、「保健室登校児等への対応」(53.5%)、「学校保健情報の把握」(41.4%)、「個別保健指導」(35.7%)であった。教育学部では、「ヘルスカウンセリング」

が1位であったが、他学部では「救急処置」が1位であった。

近年、児童生徒の心の健康問題の深刻化に伴い、中央教育審議会答申において、学校におけるカウンセリング体制の整備や、教師のカウンセリングマインドの必要性が提言されている¹⁰⁾。平成10年に改正された教育職員免許法²⁾では、教職科目にカウンセリングに関わる内容付加に伴う生徒指導及び教育相談に関する科目の充実が図られた。教員志望の教育学部生も、今日教師にカウンセリング能力が求められていることについては理解が高いと思われる。このような状況の中、教育学部生は、教育職員であり児童生徒の心身両面の健康に関わる専門職である養護教諭に大切にして欲しい職務内容として、「ヘルスカウンセリング(健康相談活動)」への期待度が高くあらわれたものと推察される。後述の「養護教諭に望むこと」の自由記述にも、教育学部生から「心のケア・不登校児・保健室登校児への対応」に関する内容がみられた。また、大切にして欲しい職務認識については、男女間に差はみられなかった。

5. 養護教諭に求められる能力について

養護教諭に必要と思われる能力について、平成9年保健体育審議会答申の「養護教諭の新たな役割・

表4 養護教諭に大切にしたい職務内容(全体・男女別)

※5項目選択

カテゴリー	全体 n=208 (%)	男子 n=106 (%)	女子 n=102 (%)	男女間有意差
ア：学校保健情報の把握	④ 87(41.8)	④ 42(39.6)	④ 45(44.1)	n.s.
イ：集団保健指導	⑤ 75(36.1)	⑤ 40(37.7)	⑤ 35(34.3)	n.s.
ウ：個別保健指導	⑥ 74(35.6)	⑤ 40(37.7)	⑥ 34(33.3)	n.s.
エ：保健室登校児等への対応	③ 111(53.4)	③ 55(51.9)	③ 56(54.9)	n.s.
オ：保健学習	⑯ 5(2.4)	⑯ 2(1.9)	⑯ 3(2.9)	n.s.
カ：救急処置	① 140(67.3)	① 73(68.6)	① 67(65.7)	n.s.
キ：ヘルスカウンセリング	② 128(61.5)	② 63(59.4)	② 65(63.7)	n.s.
ク：健康診断	⑨ 55(26.4)	⑨ 27(25.5)	⑧ 28(27.5)	n.s.
ケ：学校環境衛生	⑩ 37(17.8)	⑩ 19(17.9)	⑩ 18(17.6)	n.s.
コ：学校保健組織活動	⑭ 12(5.8)	⑭ 5(4.7)	⑭ 7(6.9)	n.s.
サ：健康管理	⑧ 59(28.4)	⑧ 32(30.2)	⑨ 27(26.5)	n.s.
シ：学級担任などが行う保健活動への協力	⑮ 9(4.3)	⑮ 3(2.8)	⑮ 6(5.9)	n.s.
ス：保健室経営	⑦ 69(33.2)	⑦ 38(35.8)	⑦ 31(30.4)	n.s.
セ：学級担任などとの情報交換協力	⑪ 30(14.4)	⑪ 15(14.2)	⑪ 15(14.7)	n.s.
ソ：保護者との情報交換、協力	⑫ 18(8.7)	⑫ 9(8.5)	⑫ 9(8.8)	n.s.
タ：日常の教育活動への参加	⑬ 16(7.7)	⑬ 7(6.6)	⑫ 9(8.8)	n.s.

※○の番号は順位を示す。 χ^2 検定

能力¹¹⁾に基づいてまとめられた新版・養護教諭職務のびき¹¹⁾に示された養護教諭に求められる能力群(以下、能力群と略す)を参考にし、『基本的資質』『学校における看護能力』『カウンセリング能力』『教育力・指導力』『健康管理能力』『保健室経営能力』の6つの能力群に分けた。日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班は「望ましい養護教諭像¹²⁾」を導いている。『基本的資質』とは、「望ましい養護教諭像」にも表現されている教育職員としての養護教諭の基盤となる健康観・教育観・子ども観を確立した温かい人間性と捉え能力群の一つとして設定した。この6つの能力群につき各3項目の選択項目を設定し、養護教諭の専門知識を有しない学生にもわかりやすい言葉に言い換えた。選択項目は「望ましい養護教諭像¹²⁾」、また同様の先行研究論文等(三木1999, 成田2000)^{13) 14)}を参考に作成した。

表5は、養護教諭に求められる能力について選択した結果を示したものである。「養護教諭に求められる能力」について全体の7割を越える者が選択した項目は、「温かさなどの豊かな人間性」(88.5%)、「相手の立場に立って考えることのできる力」(83.2%)、「心と体の健康状態を正しく判断できる力」(76.9%)、「正しく手当てをする力」(86.5%)、

「みんなが利用しやすい保健室づくりに努める」(74.0%)の5項目であった。能力群でみると『基本的資質』『学校における看護能力』に関する項目の選択率が高かった。一方最も低い選択率だった項目は、「興味をひく保健だよりや掲示物を作ることができる能力」(28.4%)であった。能力群でみると、『教育力・指導力』『健康管理能力』に関する項目は、高い項目でも5割程度であり選択率が低かった。また、選択結果については、男女間に差はみられなかった。

表6は、養護教諭に求められる能力(複数選択)と特に必要と思う能力(5項目選択)について、能力群別に総数としてまとめたものである。求められる能力、特に必要と思われる能力ともに、『基本的資質』『学校における看護能力』『カウンセリング能力』が上位にあげられた。一方『教育力・指導力』は下位であった。

養護教諭の役割は多様化し、多岐にわたってきているが、養護教諭が教育職員として、専門的職務を遂行する上での基盤となる「温かさなどの豊かな人間性」に代表される『基本的資質』が、特に必要と思われる能力群で最も上位にあげられたのが注目される。『学校における看護能力』、『カウンセリング能力』については、前述の「養護教諭に大切にしたい

表5 養護教諭に求められる能力（全体・男女別）

		※複数選択			
能力群	カテゴリー	全体 n=208 (%)	男子 n=106 (%)	女子 n=102 (%)	男女間 有意差
基本的資質	ア：温かさなどの豊かな人間性	①184(88.5)	①94(88.7)	①90(88.2)	n.s.
	イ：相手の立場に立って考えることができる力	③173(83.2)	③86(81.1)	③87(85.3)	n.s.
	ウ：子どもとともに考え、学ぶ態度	⑨124(59.6)	⑨65(61.3)	⑨59(57.8)	n.s.
学校における看護能力	エ：心と体の健康状態を正しく判断できる力	④160(76.9)	④84(79.2)	⑤76(74.5)	n.s.
	オ：医学の知識	⑥145(69.7)	⑥73(68.9)	⑥72(70.6)	n.s.
	カ：正しく手当てをする力	②180(86.5)	②91(85.8)	②89(87.3)	n.s.
カウンセリング能力	キ：カウンセリングの知識・技術	⑦138(66.3)	⑦69(65.1)	⑧69(67.6)	n.s.
	ク：正しくカウンセリングを行うことができる力	⑧137(65.9)	⑧66(62.3)	⑦71(69.6)	n.s.
	ケ：他の先生や関係機関と協力する力	⑫92(44.2)	⑫51(48.1)	⑭41(40.2)	n.s.
教育力・指導力	コ：個人の健康問題について指導を行う力	⑪107(51.4)	⑪58(54.7)	⑪49(48.0)	n.s.
	サ：興味をひく保健だよりや掲示物を作ることができる力	⑱59(28.4)	⑱28(26.4)	⑱31(30.4)	n.s.
	シ：学級や学校全体を対象として保健についての指導を行う力	⑬88(42.3)	⑭43(40.6)	⑫45(44.1)	n.s.
健康管理能力	ス：健康診断や健康観察を計画的に行う力	⑯78(37.5)	⑭43(40.6)	⑯35(34.3)	n.s.
	セ：教室や学校の環境を安全に衛生的に保つ力	⑮82(39.4)	⑯40(37.7)	⑬42(41.2)	n.s.
	ソ：伝染病や食中毒を予防し、発生したときに正確に対応する力	⑩116(55.8)	⑩60(56.6)	⑩56(54.9)	n.s.
保健室経営能力	タ：みんなが利用しやすい保健室づくりに努める	⑤154(74.0)	⑤75(70.8)	④79(77.5)	n.s.
	チ：健康に関する必要な情報が得られる保健室づくりに努める	⑭85(40.9)	⑬46(43.4)	⑮39(38.2)	n.s.
	ツ：学校の保健管理や保健教育のために必要なものを整備している保健室づくりに努める	⑰70(33.7)	⑰35(33.0)	⑯35(34.3)	n.s.

※○の番号は順位を示す。 χ^2 検定

表6 養護教諭に求められる能力，特に必要と思われる能力

能力群	求められる能力 (複数選択)	特に必要と思われる能力 (5項目選択)
基本的資質	② 481	① 350
学校における看護能力	① 485	② 316
カウンセリング能力	③ 367	③ 146
教育力・指導力	⑥ 254	⑥ 33
健康管理能力	⑤ 276	⑤ 62
保健室経営能力	④ 309	④ 93

※○の番号は順位を示す。

表7 養護教諭との関わりの経験

※自由記述から抜粋

複数回答 n=105 (50.5%)

【救急処置に関すること】 n=51

- 部活中ケガして運ばれた時に家に連絡してくれたり、病院の手配をしてくれたり、とにかく迅速にしてくれた
- 指を脱臼してしまった直後、結構ひどかったので自分自身ひどく不安におそわれ、頭が真っ白になったとき「大丈夫だから。」と優しく声をかけてくれた
- 貧血でよく倒れていたの、そのときに優しい言葉と笑顔で接してくれる先生が好きでした など

【相談相手・話し相手として】 n=24

- いつも悩みを聞いてくれた。誰より先に、悩みがあることに気付き、話を聞いてくれた。身体の悩みに自分の体験談も含めて相談にのってくれたこと
- 保健委員の副委員（中・高）をしていたから、けっこう養護教諭の先生と仲良くなれて、進路の悩みを相談できたことは良かったと思う
- 親身に自分のことのように心配してくれ、その気持ちだけでも楽になれた など

【人間性】 n=12

- 自分の意見を尊重してくれたりしたこと
- 親のように、分け隔てなく接してもらった
- 高校のときの保健の先生は、ただそこに居るだけで安心できる人でした。笑顔を絶やさず優しい先生だった。保健委員として一年間そばに居て、「こんな大人になりたい」と思える先生でした など

【声掛け・あいさつ】 n=9

- 保健室以外でも優しく「元気ね？」と声をかけてくださったこと
- 一回保健室に行っただけなのに、次に廊下で会ったら「もう大丈夫？」と優しく声をかけてくれたこと
- たまたま保健室を訪ねた時に名前を覚えていてくれて、「視力が落ち気味だよ」とアドバイスされたこと など

【保健指導・保健学習に関すること】 n=6

- 保健便りの裏がSTD 予防のコーナーになっていて、正しい知識を得られたと思う。基礎体温とかも初めてそこで知った。高校のとき、避妊とかも
- 健康に対するちょっとした知識でも、普通の会話の中で教えてくれた
- 病気が起こる要因や、処置の仕方をわかりやすく教えてくれたこと など

【保健室環境について】 n=3

- 保健室は静かで眠りやすかった
- 高2のとき、かなり落ち込んでいて定期テストを受けられず保健室に行ったら、何も詮索することはせずベッドに寝かせてくれて、とても静かで最高に気持ちがよかった。保健室のベッドが最高なものだということを知り初めて知った など

欲しい職務内容」でも「救急処置」「ヘルスカウンセリング」が上位にあげられていた。これらの結果より、養護教諭にとって不可欠な機能である『学校における看護能力』と現代的機能である『カウンセリング能力』を求めていることが把握された。

6. 養護教諭との関わりの経験

表7は、養護教諭との関わりの経験（養護教諭にしてもらってうれしかったこと、良かったこと、役立ったこと）について、自由記述で得た回答を抜粋しまとめたものである。105名（50.5%）から回答が得られた。養護教諭の温かい的確な対応が印象に

残っているなど【救急処置】（51名）に関する内容が最も多かった。その他に【相談相手・話し相手として】（24名）、やさしい、親しみやすいなどの【人間性】（12名）、保健室を訪ねた時に名前を覚えていてくれたなどの【声掛け・あいさつ】（9名）、【保健指導・保健学習に関すること】（6名）、「保健室は静かで眠りやすかった」などの【保健室環境】（3名）に関する記述がみられた。

7. 保健室や養護教諭に望むこと、期待すること
保健室や養護教諭に対して望むこと、期待すること等について170名（81.7%）から回答が得られた。

表8 保健室や養護教諭に対して望むこと、期待すること

※自由記述から抜粋 複数回答 n=170 (81.7%)

<保健室に対して> n=33	
〔保健室経営に関すること〕 n=33	
(利用しやすい保健室) n=15	
○みんなが利用しやすい保健室作り	○行きやすい保健室にすること
○オープンな保健室	
○誰でも入っていきやすいような、温かい保健室であって欲しい	など
(安心できる・あたたかい保健室) n=12	
○いつ行っても温かく迎え入れてくれるような雰囲気のある保健室がよいと思う	
○学校という場で保健室は子どもを学力や能力で判断しない、温かく安心できる場であって欲しい	
○誰でも安心して行けて、悩みなどいろんなことを相談できる場所にして欲しい	など
(その他) n=6	
○授業に出たくないという理由での使用をさせないこと	
○保健室は授業放棄で来る人も多いので、体調悪い人が寝ているときは静かにするよう注意して欲しい	
○私の友達が不登校になったとき、保健室になら行けたので、どんな子どもでも保健室を通じて学校とつながっていけるような場所であって欲しい	など
<養護教諭に対して> n=137	
〔人間性〕 n=87	
(やさしさ・温かさ・思いやり) n=31	
(厳しさとのバランス) n=9	
(相談しやすい・話しやすい・傾聴する) n=19	
(生徒や相手の気持ちを考える・理解する) n=8	
(平等) n=9	
(豊かな人間性) n=6	
(明るさ・笑顔) n=5	
〔専門性に関すること〕 n=33	
(救急処置に関すること) n=10	
○病気やケガなどで行ったときの迅速な対応	など
(判断力・迅速な対応) n=5	
○個人の心と体の健康状態を正しく判断できる力	など
(心のケア・不登校児・保健室登校児への対応) n=7	
○保健室登校など今までのケガ、病気の処置に加えてメンタル面の対応の必要性が増えてくると思う。	
しっかりと対応できる先生がいい	など
(専門的な知識・技術) n=6	
○最近とても求められているものが多くなっている(体も心も)ので、対応できるように知識をたくさんつけて欲しい	など
(教職員・保護者・関係者との連携) n=5	
○保健室の中の問題(生徒からの相談など)を保健室の中だけにとどめずに、他の教員や保護者と共有してもらいたい	など
〔その他〕 n=17	
○担任や教科の担任の先生と違う、身近な立場からの意見を言ってくれること	
○どうしているのかが、他の先生(国、数、英など)に比べるとよく認識されていないと思うので、何をしているのか、また何ができるのかを教えてもらえればいいなと思います	など

表8は、自由記述の内容を抜粋しまとめたものである。保健室については33名から回答があり、『保健室経営』に関する内容がほとんどであった。特に〔利用しやすい保健室〕(15名)、『安心できる・あたたかい保健室』(12名)を望む内容が多かった。『保健室経営』に関する内容の〔その他〕(6名)には、「授業に出たくないという理由での使用をさせないこと」「保健室は授業放棄で来る人も多いので、体調が悪い人が寝ているときは静かにするよう注意して欲しい」というように保健室の使用ルールについて明確にし、養護教諭自身もこのことを意識的に注意して欲しいと望む内容があった。養護教諭については137名から回答があった。自由記述の内容を『人間性』(やさしさ・温かさ・思いやり、厳しさとのバランス、相談しやすい・話しやすい・傾聴する、生徒や相手の気持ちを考える・理解する、平等、豊かな人間性、明るさ・笑顔)、『専門性』に関すること(救急処置に関すること、判断力・迅速な対応、心のケア・不登校児・保健室登校児への対応、専門的な知識・技術、教職員・保護者・関係者との連携)、『その他』に大別した。最も多かったのは『人間性』に関する内容(87名)であった。前述の「養護教諭に求められる能力」でも「温かさなどの豊かな人間性」に代表されるような「基本的資質」が最も求められており、「養護教諭に望むこと」の自由記述にも同様の内容が見られた。次いで、『専門性』に関する内容(33名)〔救急処置に関すること〕(10名)、『心のケア・不登校児・保健室登校児への対応』(7名)、『専門的な知識・技術』(6名)、『判断力・迅速な対応』(5名)、『教職員・保護者・関係者との連携』(5名)があげられた。前述の「養護教諭に大切にしたい職務」「養護教諭に必要とされる能力」では、『教職員・保護者・関係者との連携』にあたる項目は選択率が低かったが、「保健室の中の問題(生徒からの相談など)を保健室の中だけにとどめずに、他の教員や保護者と共有してもらいたい」「校医と担任と地域の人々と家庭と養教とすべてが一つになって、連携をとりながら、子どもたちを見守っていく体制が大切だと思う」など、自由記述では連携の重要性についての内容もみられた。〔その他〕(17名)では「担任や教科の担任の先生と違う、身近な立場からの意見を言ってくれること」という他の先生とは違う存在と感じている内容や、「どういうことをしているのかが、他の教科の先生(国、数、英など)に比べるとよく認識されていないと思うので、何をしているのか、また何ができるのかを教えてもらえればいいと思う」という養護教諭の職務や専門性を、養護教諭自

らアピールすることを望む内容もあった。

まとめ

平成16年度の熊本大学1年次学生を対象に、大学生が養護教諭にどのような役割や能力を求めているかを把握することを目的として、質問紙調査を実施し検討を行った。その結果、およそ次のようにまとめられる。

1. 大学生は養護教諭が一般的に行っている職務として「救急処置」、「健康診断」などの養護教諭に不可欠な従来の機能を表す職務と、「健康相談活動(ヘルスカウンセリング)」「保健室登校児等への対応」という養護教諭の新たな現代的機能を示す職務の両面にわたり認識していた。しかし、「保健学習」や「保護者、学級担任等との連携・協力」「学校環境衛生」などの認識は低かった。大切にしたい職務について、「救急処置」「健康相談活動(ヘルスカウンセリング)」「保健室登校児等への対応」が上位にあげられ、「保健学習」が最も低い結果であった。
2. 養護教諭に必要とされる能力として、「基本的資質」や「学校における看護能力」「カウンセリング能力」に関する項目が上位にあげられた。
3. これまでの『養護教諭とのかかわりの経験』では、温かい的確な対応などの「救急処置」や親しみやすいなどの「人間性」、普段からの「声かけ・挨拶」や「相談相手・話相手」として印象に残っている内容が多かった。
4. 『保健室や養護教諭に望むこと』では、保健室に対して「利用しやすい保健室」「安心できるあたたかい保健室」を、養護教諭に対してやさしさ・温かさ・思いやりなどの「人間性」や「救急処置」に関する内容が多くあげられた。自由記述では、「救急処置」などの専門的職務とともに、あたたかい人間性などの基本的資質が求められていた。

児童生徒の健康問題が複雑化・深刻化する中で、養護教諭の役割は、これからますます多岐にわたり多様化していくことが予想される。これからも養護教諭は、児童生徒をはじめ養護教諭を取り巻く人々が何を求めているのかを常に把握しながら、ヘルスニーズに応じた対応を行っていくことが大切であると考えられた。

本稿を終えるにあたり、アンケート調査にご協力いただいた熊本大学1年次学生の皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 文部省：保健体育審議会答申，1997
- 2) 文教教第234号,平成10年6月25日：教育職員免許法の一部を改正する法律等の公布について，1998
- 3) 財) 日本学校保健会：平成13年度保健室利用状況に関する調査報告書，p.33-35，2002
- 4) 今野洋子：日本養護教諭教育学会第12回学術集会抄録集，大学生の持つ養護教諭および保健室の印象—A大学の学生を対象とした調査から—，p.52-53，2004
- 5) 学校保健法第19条：新学校保健実務必携 第7次改訂版，付録p.6，第一法規，2003
- 6) 石川県養護教育研究会：新版・養護教諭執務のてびき 第4版，p.43，東山書房，2003
- 7) 松田芳子他：教育学部生の養護教諭の職務認識に関する研究，学校保健研究vol. 36(3)，p.135-141，1994
- 8) 門田新一郎：中学校における養護教諭の教科「保健」担当に関する調査研究—養護教諭と学校長を対象として—，学校保健研究vol.46(2)，p.194-207，2004
- 9) 前掲書6)，p.174
- 10) 文部省：中央教育審議会答申，文部時報10月臨時増刊号，p.124-128，ぎょうせい，1998
- 11) 前掲書6)，p.22
- 12) 日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班：これからの養護教諭の教育，p.27，東山書房，1991
- 13) 三木とみ子他：養護概説，第3章 養護教諭に必要な能力，p.28-46，ぎょうせい，1999
- 14) 成田みどり他：養護教諭に必要な資質に関する一考察，日本養護教諭教育学会誌，vol3，p.144-120，2000